

# しが国際協力親善大使レポート

ちくま しょうこ  
筑 祥子さん

隊次：2017年度1次隊

職種：日本語教育

派遣国：ブラジル

## プロフィール

滋賀県米原市出身。大学卒業後3年間接客業をしていましたが、海外で仕事をしてみたいという気持ちが強くなり、仕事をしながら学校に通い、日本語教育の資格をとりました。その後はインドネシアで約一年日本語教師アシスタントを、日本で一年半日本語教師をしていました。

## 活動について

私は日系人が多く通う日本語学校で日本語を教えています。「日系人」というのは、簡単に言うと日本から色々な土地へ移住した日本人の子孫のことをさします。私が働く学校では2歳から75歳まで幅広い年代の人が日本語を学んでいて、父や母に教わった日本語を忘れたくない、というおじいちゃんや、アニメが大好きだからもっと日本のことを知りたい、という大学生。特に理由はないけれど勉強しなければいけない気がする、という高校生もいます。また、わたしの配属先ではカラオケや和太鼓の活動が盛んです。火曜と木曜の夜には舟木和夫や天童よしみ、美空ひばりの歌が聞こえ、金曜と土曜には和太鼓の音が響きます。町のスーパーには日本の食材が並んでいるし、土日のフェイラ（青空市場）では豆腐や納豆、OBENTO（日本のお弁当！）が買えます。こんな地方の街でも至る所で「日本」を感じることができます。そして、日系人の人たちは、それぞれ日本のことを特別に思う気持ちがあるのだなと日々感じています。

その中でも、特に私が心魅かれたのはブラジルの「どら焼き」です。どら焼きと言えば、二枚のカステラ生地にあんこを挟んだ和菓子。ドラえもんが大好きなあれ。日本人なら誰でも知っています。しかし、こちらのどら焼きはわたしの知るものとは違っていました。二枚重ね合わせる形の鉄板に小麦粉でできた生地を流し込み、そこに卵や砂糖で作ったカスタードクリームのようなものを入れて、型を合わせて焼いたもの。説明が難しいけれど、日本ではカスタードのワッフルというのが一番近いと思います。「どら焼きだよ、お食べなさい」と言ってこのお菓子を渡された時、「どら焼き？」と聞き返したものの、それ以上言葉が続きませんでした。このどら焼きを作ってくださったのはご近所に住む日系二世のおばあさまで、御年90になられるそう。彼女の90年の中で「どら焼き」と言えば、このお菓子なのです。どうしてこのお菓子が「どら焼き」になったのかな、と想像をめぐらせてみると、や

はり移住してきた方々がここにあるもので子どもたちに作ってあげたおやつが最初なのかな、と思います。でも、不思議なのは、小豆が簡単に手に入るようになって、そして情報が入ってくるようになってずっとこれが「どら焼き」であることです。私が教えている学生たちはドラえもんを知っているのに、生地を二枚使いあんこが入ったどら焼きのことも知っています。でも、ずっと訂正されることはなかったのです。

少し変かもしれませんが、わたしはそこに家族のつながりや、愛みたいなものを感じてしまいます。ここに住む多くの人にとって、私たちがよく知る形のどら焼きよりも、父や母、祖父母が「どら焼きだよ」と言って作ってくれたもののほうが価値があったのではないかと思います。だから、わたしはいつまでたっても「日本のどら焼きはちょっと違ってね…」という話ができます。今ではそれもいいかなと思っています。色んな人が考える、色んな日本があっていい。日本の裏側のこの土地で、まだ見ぬ日本をたくさん教えてもらいたいと思います。



盆踊りのあとで、学生たちと。



和太鼓の練習風景



日本語合宿の修了式

# しが国際協力親善大使レポート

ちくま しょうこ  
筑広 祥子さん

隊次：2017年度1次隊

職種：日本語教育

派遣国：ブラジル

ブラジルで日系社会青年ボランティアとして活動している筑広祥子です。

この文章をかくにあたり、「中高生もたくさん読みますよ」とのことだったので、中学生の私に宛てた手紙を書いてみることにしました。自分が中学生の時のことを思い出してみると、残念ながらブラジルや日系社会についてちっとも興味を持っていなかったと思います。ただ、中学校の同級生に日系ブラジル人の男の子がいました。当時の私は彼に対して不思議に思うことがたくさんありましたが、結局自分から質問することもできず、人に教えられることもなくそのままにしてしまいました。きっと、どこかに同じような疑問を持った子がいるのではないかと思い、これを書きます。その子が一歩踏み出すきっかけになれば嬉しいです。

## 中学生の私へ

こんにちは。私は今 JICA の日系社会青年ボランティアとして、ブラジルの日系日本語学校で日本語の先生をしています。日系社会というのは、かつて日本からブラジルへ移民してきた人たちが作ったコミュニティーのことです。日本から遥か遠いここブラジルには、日本にルーツをもつ人がたくさんいます。学校の歴史の授業ではあまり詳しく勉強しませんが、ブラジルをはじめ北米・中米・南米など様々な国に多くの日本人が移民しています。あなたの学校に転校してきたブラジル人の男の子は、こういった人たちの子孫にあたります。たぶん、ひ孫くらいになるんじゃないかな。

私が住んでいるところはサンパウロの南、パラナ州にあるコルネリオプロコピオという町です。四万五千人の人が住んでいます。滋賀県の高島市と同じくらいですね。ここにはたくさん日系人が暮らしています。そのため、スーパーには日本のお米やうどんなど、たくさん日本の食材が売っています。時々納豆もあります。

この町に住む日系人のおじいさん・おばあさんはポルトガル語も日本語も本当にお上手で、いつも私を助けてくれます。お父さんやお母さんから習った日本語だそうで、みんな方言で話します。少し古い日本語もたくさん残っているので聞いていてびっくりすることもあります。

私が活動しているのは、日系人が集まる会館（公民館みたいなところ）の日本語学校です。移民してきた人たちやその子孫が、日本語を未来に伝えるために作った学校です。日系社会にはこういった日本語学校が本当にたくさんあります。日本の裏側で多くの人が日本語を勉強しているなんて、きっと想像できないでしょうね。

おじいさん・おばあさんの日本語と比べ、あなたと同じくらいの年の学生はそんなに上手じゃありません。昔は家で日本語を使う家庭もたくさんありましたが、今はほとんどないようです。親に言われて嫌々学校へ来ている子もいます。日本と同じですね。ブラジルでもアニメや漫画が人気です。アニメや漫画が好きな子たちは頑張って勉強しています。やっぱり少年ジャンプが人気かな。ワンピース、ナルト、僕のヒーローアカデミアなど、みんなとても詳しいです。

日本語学校の学生には、小学校や中学校まで日本にいたという子もたくさんいます。ブラジルへ戻って日本語を忘れてしまったという子もいますが、多くの子たちは日本語がとても上手です。でも、ブラジルへ帰ってきてから、ポルトガル語の勉強が本当に大変だったと言っていました。また、自分が何人なのか悩んだという子もいます。日本ではブラジル人と言われ、ブラジルでは日本人と言われるそうです。こんなこと、日本人の親から生まれ、ずっと日本で生活しているあなたにはピンと来ないと思います。今ブラジルで生活している私も、彼らの気持ちを想像することしかできません。それでも、彼らが自分のルーツである日本と真剣に向き合っている姿には胸を打たれます。

今まで色々書いてきましたが、少しでも転校生の彼に対する疑問は解消されたかな。そして日系社会や日系人に少しでも興味をもってもらえたら嬉しいです。気になることは本人に聞いてみてもいいし、自分で調べたり、周りの大人に聞いたりしてもいいと思います。あなたの周りには、本当に多くの日系人が暮らしています。あなたの世界が少しでも広がることを願っています。



日本語学校の学生と